

平成 24 年度

事業所名 : グループホーム さわこ

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100070		
法人名	有限会社やまざき		
事業所名	グループホームさわこ		
所在地	〒026-0412 岩手県釜石市栗林町9-10-9		
自己評価作成日	平成25年3月11日	評価結果市町村受理日	平成25年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391100070-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391100070-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 25年 3月 26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心と尊厳のある自立した生活また、高齢者が「生きる事」を実感できるような支援を目指しています。そして自己決定を尊重しながらプライバシーやプライドにも配慮して礼節ある接し方に気を付け、利用者様が常に笑顔あふれる生活を支援していくことを基本方針としています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

釜石市の北側大槌町との境に位置し、本来あったはずの鵜住居の集落全ては震災で跡形もなく流され、残るはコンクリートの土台のみである。周辺の空き地には仮設住宅が立ち並び、その一角にホームは立地している。利用者は地元出身者が多く、食事づくりや掃除・洗濯などの手伝いは勿論のこと、野菜づくりや詩歌・工作手芸に関心があり日常生活の一環として楽しみのある生活ができるような支援に努めている。小学生やボランティア演奏者との慰問交流や近隣住民からのスイカ等の差入もあり徐々に地域との交流の輪も広がりつつある。当ホームは開設して間もなく被災者も含めた地域機能の安定・再構築を機に地域の一員としての生活を目指したいとしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム さわこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り後、職員全員で理念を復唱している。施設内に掲示し、全職員で共有、理解している。	「安心・尊厳・自己決定・笑顔」の理念を基に、「挨拶・気くばり・思いやり・報告・連絡・相談」などの目標を掲げ、理念・目標を掲示し、申し送り時に再確認するとともに毎月の会議で話し合いを重ねながら実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開設から1年たち、地域交流は浅いが、地域からの関心が高く運営推進会議を活用し、当施設を理解して頂いている。日常的な交流に繋げていきたい。	震災後、仮設住宅が建設された地域内に立地し地元の町内会が震災後混乱しており町内会へは未加入である。小学生やボランティアとの交流や近隣住民からの差入など徐々に日常的な交流が行なわれてきている。	利用者は近隣出身者が多く自治会への加入を望んでいる。地域サークル活動参加者との交流を図るなど、高齢者福祉の核として住民が気兼ねなく立ち寄れる「さわこ」の運営を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校や他施設との交流を通じて、当施設の雰囲気を理解してもらうよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を通し、意見交換や地域のみなさんに理解してもらえよう活動している。第三者からの意見も活かす事ができている。	状況報告をしながらホームへの理解と協力体制の確立に努めている。今後は行事と併せた開催の工夫など、より気軽に話し合いのできる雰囲気作りをしながら忌憚のない意見・提言が得られるようにしたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議で地域包括支援担当者と相談している。ケアマネ会議にも参加したいが現状まだ参加できていない。	地域包括支援センターや研修等を通じて徐々に連携が深まってきている。更にケア会議参加や保健師・栄養士等関係機関・担当者との連携を積極的に図ることにより密接な関係を築きたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解しており、身体拘束はない、声掛けしながら玄関の施錠をしないよう心掛けている。	身体拘束の弊害は職員全員が理解しており、ペット柵も布団のずり落ち防止や利用者が体を起こすときのために設置している。居室には鍵の設備はなく、玄関も安全確保のために施錠しているのみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを用いて、虐待についての意識をもつようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例がなく、未実施である。今後、勉強会などを通して学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約後に時間をかけ説明し、お互いに質問しながら理解、納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、家族から直接お話しを伺う機会を設け運営に反映している。家族への電話連絡はその都度行なっている。	家族の訪問時に状況報告をしながら意見・希望を聴いている。現状は利用者の健康や買い物・食事への希望等が多く話し合いながら希望を叶えている。家族会が組織され、家族の意見を運営に取り込めるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の会議では、代表者や管理者、全職員が参加し、意見の交換を行なっている。個別対応も行なっている。	毎月代表者や管理者を交え、全職員参加して会議を開催し、運営や職員の希望などについて話し合いをしている。加湿器の追加購入や職員の勤務調整がなされており環境改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に応じた給料水準に出来るよう、対応している。個別の労働時間や条件を話し合い、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、勉強会を開き実際のケアに繋げていけるよう全職員で努めている。外部より講師を招いて、勉強会を実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加入し、情報共有している。近隣のGHとは随時電話等で連絡をとり、サービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、本人の不安なところ、要望などを聞き取りできるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、要望などを直接お話しを伺う機会を何度も設け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族のお話を聞き、必要とされている支援を行なっていくように努めているが、当施設で支援できないことは他のサービス利用も説明し検討していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる活動を見つけ、施設での役割をもってもらえるよう日頃から良好な関係づくりを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担にならないよう配慮しつつ、ご家族と連絡をとりながら随時本人への対応を相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の訪問があり、馴染みの理容店やお店等への外出もご家族の協力を得て実践している。	利用者は地元の人が多く、日常的に顔なじみの人が訪ねてきてくれる。美容院の協力送迎があり気分転換を兼ねて理髪・整容に外出している利用者もあり、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	症状の重い人、軽い人がうまく関わっていくように随時職員が間に入り、両者の気分を害さないよう声掛けを行なっている。関係性や表情、会話などを留意し、職員間で情報を共有しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、必要に応じてその後の支援も行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や本人の意向をよく聞き、それぞれの思いを伺いながら職員間で情報共有し、サービスに対応している。聞き取りが困難な場合はご家族に確認している。	家族からの話しや日頃の話題・表情からくみ取っている。本と詩作に興味のある利用者、畑仕事の希望などがあり詩作品を掲示したり菜園に取り組むなどの支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境など、本人やご家族から聞き取り把握することで利用者の対応を検討するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方、心身状態を細かく申し送りして、職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望を反映しながら、職員の意見を取り入れ、現状に合わせたプランを作成している。	本人の言葉や日ごろの反応、家族の希望、職員の意見を加味し、概ね3か月ごとにケアプランを作成している。また、モニタリングを常に意識し、よりよい生活が送れるように支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りで日々の様子、ケアについてを情報共有しながら、介護にあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族に協力していただきながら、ご本人の希望に合わせて対応している。ご家族が遠方などで受診同行できない時は、職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をまだ有効活用できていないが、今後必要に応じて活用できるよう地域への周知に努めたい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の心身状況を維持するため、適切な医療を定期的継続的に受けられるよう、支援している。ご家族、本人の希望を第一に考え支援を行なっている。	在宅時のかかりつけ医を原則とし、入居後に状態に添った専門医や訪問診療を利用している利用者もいる。利用者の生活状況はホームからの連絡票で伝え、医師の指示は家族から聞き取りをし適切な受診支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在宅診療の看護師や主治医、ご家族に日々の心身状況を伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際し、主治医、看護師に利用者の状況を伝え、本人の適切な医療、看護が受けられるよう支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の心身状況の悪化に伴い、ご家族、主治医と話し合いを重ね、事業所のできることを説明、理解して頂いた上で支援している。	利用者の身体状況の悪化によってホームでの支援が難しくなった場合には、ホームで「出来ること」「出来ないこと」を説明し、家族やかかりつけ医等と話し合いを重ね、相談に応じていくことについては理解を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じて訓練を行なっているが、今後は定期的な全体訓練を実施していきたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、避難訓練を行なっている。地域への連絡体制はまだ整備されていないので今後働きかけていきたい。	暖房は床暖でスプリンクラーも設置している。年2回の防災訓練や避難訓練を実施しているものの、推進会議を活用しての消防団など地域との協同関係の整備は今後の課題である。	特に夜間の防災・避難を想定し職員の通報招集訓練や消防団員を含めた地域の協力体制の確立を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの生活歴、性格に合わせた声掛け、対応を行なっている。	利用者の性格や個性を尊重し、言葉遣いや介護時の態度に気をつけている。特に、排泄や入浴時には羞恥心に気配りし言葉かけや支援の仕方に配慮している。職員間で指摘し合えるようなチーム作りを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれが思うことや希望を言い出せる雰囲気作りを心がけ、その時々で自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、その日の体調に合わせて居室で休んでいただいたり、利用者の心身状況維持のため日中活動への声かけをするなど無理なく参加していただけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者それぞれの生活歴に合わせ対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに合わせ食事ができるよう配慮している。準備、調理、配膳、片づけ、買い物などできることをしていただいている。	献立は利用者の好みや菜園の収穫物の利用などを考えて作っている。調理・味付け・配膳・食器洗いなど分担し、買出しも職員と共に出かけ家庭的な雰囲気楽しく食卓が囲めるように工夫・演出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの能力に合わせ、心身状況が悪化しないよう、食事量、水分量を把握し、主治医に報告し必要な場合は栄養補助食品を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄の確認を行い声掛けによる誘導を行なっている。利用者それぞれの能力に合わせ、排泄の自立に向けた支援を行なっている。羞恥心に配慮するよう気を付けている。	利用者の排泄パターンを把握し、表情やしぐさから読み取り声がけ誘導でトイレで排泄できる支援に努めている。半数のリハビリパンツ利用者がいるが当面1名の排泄の完全自立を目標としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者それぞれの能力に合わせ、水分量、運動量、服薬を考慮した対応を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的入浴日は決まっているが、一人一人の体調や季節に合わせて入浴していただいている。	週2回の入浴日を決めているが利用者個々の体調や気分を考慮し、時に清拭をするなど清潔をモットーに入浴を楽しめる支援に努めている。また、菖蒲湯や柚子湯等にも取り組んでいきたいとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良眠につながるよう日中活動や服薬状況を検討しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師、主治医と相談しながら利用者それぞれの心身状況の維持ができるよう支援している。薬ノートを使用し、薬の目的、副作用、用法、用量を理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や楽しみごとなど能力を考慮し、日常生活での活動を個々に取り入れています。(書写や畑仕事、読書など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の外出はご家族のご協力を得ている。買い物や散歩などは本人の希望にそって行なっている。冬の間は外出を控えている(流行性感染症)。	山間・田園地帯の四季折々の風景を楽しみながら、ホーム回りを日常的に散歩している。日用品や花の買出しを希望する利用者と共にでかけることもある。震災後の各種手続きや選挙などの外出には家族の協力を得ている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者それぞれの能力を考慮した上でお金の所持をしていただいている。買い物へ同行、代行した際は実際に支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月毎に季節感を感じられるディスプレイを用意し、食堂に花を飾り、明るい雰囲気になるよう工夫している。廊下にはイベント写真を貼っている。	リビングは天井が高く、十分な採光とともに圧迫感が感じられない作りとなっている。洗面所には利用者手作りの花瓶が飾られ、キッチンからは生活のにおいを感じることができる。個室のドアには折紙細工や花が付けられ迷わず入室できるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にイス、ホールにソファー、外にも椅子を置き利用者同士または、ひとりでくつろげるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や仏壇など一人一人に合わせた環境作りに努めている。	居室は全て南向きに配置され夫の位牌や家族の写真などの身の回り品に囲まれ安心感がある。手作り作品や好みの花で潤いを醸し出している利用者もおり夫々が個性を活かし落ち着いた雰囲気のある部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には利用者に合わせ、目印と名前のプレート、それぞれの部屋には大きくプレートを貼り自立した生活を送れる様工夫している。		